

平成22年度第1回中国ブロッククラブミーティング2010開催報告

日時：2010年6月19日（土）13：15～17：00

会場：岡山県「ピュアリティまきび」

はじめに

平成22年6月19日（土）に、岡山県岡山市内「ピュアリティまきび」にて、第1回中国ブロッククラブミーティング2010が開催された。今回のクラブミーティングには、中国ブロックの創設支援クラブ：30クラブから46名の担当者と、育成を支援する日本体育協会クラブ育成課、各県の体育協会担当者、クラブ育成アドバイザー、発表クラブ、地方企画班員が参加し、事例発表とグループディスカッションが熱心に行われた。今回の目的としては、総合型クラブづくりを楽しむことを柱に、設立にあたってのクラブの課題や問題点と、運営の基礎について必要な情報や具体的な取り組み内容の情報を共有し、解決策をディスカッションの中で得ることを目的とした。



事例発表

事例発表のテーマは、「クラブづくりをたのしもう！」で、広島県から芸北道場の小田壮二さんと、岡山県・^{やなはら}柵原星の里スポレク倶楽部の表田実典さんから発表があった。

発表クラブ① 小田壮二（芸北道場）

1 芸北道場設立まで

- (1) 町内の総合型SCと合同で北海道へ道内の先進地視察を2度行う。
- (2) 地域の実状を再確認し過疎・少子高齢化で危機感がつのる。
地域興しがしたい気持ちが設立につながる。
- (3) スキー関係者と協議し総合型の理解を得る。
スキーがメインで地域スポ少も取り込んで活動。
- (4) 生涯学習課の指導を受けながら設立に向けた準備をする。
- (5) 設立までの計画、設立予定日を設定することで、前に進むしかない状況をつくる。
- (6) 組織の硬直化を防ぐために、全地域へ広報活動や協力の依頼をすることで、後で私は聞いていないという人を無くす。
- (7) 全12回の設立準備委員会を開催し、6回目で「芸北道場」のクラブ名が決定。
- (8) 設立にあたって、行政・地域・マスコミに周知、記念式では体操の佐藤弘道さんによる講演会を開催。大いに盛り上がる。



発表クラブ② 表田実典（柵原星の里スポレク倶楽部）



- (1) みんなで楽しく！を合い言葉にテーマを「夢★ときめき★感動」と決め、マスコットキャラクター「スポレクくん」を誕生させ子どもたちに親しみやすくした。クラブの宣伝と効果については、パンフレット作成や、広報誌を毎月1回発行したり、町の告知放送を利用。町のローカルTVやメールマガジン、ホームページ等でクラブの情報を発信している。
 - (2) クラブづくりとは、①時間づくり②空間づくり③仲間づくり、3間（サンマ）が重要。みんなで一緒に汗を流すことの大切さや、感動の気持ちを大事にして、3年先、5年先を見つめ目標や目的（夢）についてイメージを具体的に立てることを心がけている。
 - (3) クラブづくりを楽しむとは、日々の活動の苦しさも楽しみに変える！楽しいと感じる。大変や苦しみは楽しむと背中合わせであるので、会員さんや地域住民との触れ合いや対話がとても重要で、そこにヒントが必ず潜んでいるので、耳を傾け、意見を大事にすることで、クラブが育つ。
 - (4) クラブ主催のイベントを年間で16回開催。年間を通じて常に準備をしている状態でイベントをすることで、クラブの体力がついてくると考えている。イベントをすることで、多くの課題や問題点が見えるが、それ以上の多くの人が喜んでくれたり、元気になってくれるから次へのイベントに向けて頑張ることができる。
- [主なイベントの内容]
- ・星を観る会・どろんこ運動会・キャンドルコンサート・スポレク感謝祭・プロ野球観戦ツアー・キャンプ・一日寺修行・オセロ大会・ソフトバレーボール大会・ソフトボール大会・グラウンドゴルフ大会・バスケットボール大会・ゴルフ大会・サッカー大会
- (5) 新しい取り組みとして、「スポレクせんべい」と「スポレク特製缶バッチ」の制作と販売をスタートさせた。
 - (6) 地域とクラブの関係として大事にしていることは、互いに理解し相手の立場になって物事を考える。行動を共に絆を深めること。対話が大事、熱く語るが一方通行では駄目、相手の話をちゃんと聞くこと。
 - (7) 時代の流れに沿って、地域の声に耳を傾け、スポーツだけにこだわらない柔軟なスタンスを持つこと。そして、立ち止まらず積極的に行動する。また、理解者を増やし、途中であきらめない。クラブづくりは人づくりでもあるので、モチベーションの維持や役割と責任をしっかりと持つことが大事。Try is best みんなで楽しく。

グループディスカッション

グループディスカッションでは「クラブの課題や問題について」と「運営の基礎について」をテーマにA～Gのグループに分かれてディスカッションを行った。

[クラブの課題や問題点について]

- ・ 中心人物が見つかっていない
- ・ 施設がない
- ・ 今まで料金を取っていないため今から取れるのかわからない
- ・ 年間300円の会費（体育協会費）が源
- ・ やりがいがあるなら教えてほしい
- ・ 合併により施設が使えなくなっている
- ・ 地域自体が活性化しにくい
- ・ 会議はしているが前に進んでいかない
- ・ 準備委員会の委員が皆仕事があるため事務局に力を注げない
- ・ 仕方なく始まったため負担を感じる
- ・ 創設支援事業の助成金の使い方が分からず事務処理をする人がいない
- ・ クラブが自立して活動していくためには、行政の支援に必要以上に頼らず、切り離さないといけない
- ・ 指定管理者制度を取り入れるのは、組織がしっかりしないと難しい
- ・ 補助金をあまり受けず自主運営体制を取るのが望ましいが、それには人・物・お金・知恵が必要
- ・ 住民の考えでお金を払ってスポーツをするという意識がない
- ・ 会費を払ってスポーツをするという認識を持ってもらうのに時間がかかる
- ・ それぞれの種目で会費を取っているがやる人が一部のため運営が難しい
- ・ クラブマネジャーの養成が急務、設立後の会計が不安
- ・ 行政と住民のどちらが中心にやるか、行政がやらざるを得ない状況がある
- ・ 最終的に誰が引き受けるのか、誰かがどうにかしてくれるだろうという意識が抜けない
- ・ 最初は行政が取り組むが将来的には公民館が行う
- ・ 事務局すべて地域住民で引き受けるのは難しいため公民館が適当
- ・ クラブの位置づけとして設立後5年間の助成を受けた後の教育委員会との関係が心配
- ・ 準備委員会のメンバーが全て男性なので女性を取り込むこと
- ・ 会員集めが課題で、スポ少における種目ごとの関係をクラブで束ねるように移行することで地域作りに発展していく
- ・ 既存クラブや団体との兼ね合いが難しい
- ・ スタッフメンバーの理解が欠けている
- ・ 人口が減ってきているので少年団や子どもの活動ができない



- ・ 地域の体育的行事や文化的行事に参加する人が減ってきている
- ・ 体育協会は競技中心で敷居が高い
- ・ t o t oの助成ありきではなく自主財源で頑張っていく心意気が必要
- ・ 経理処理の問題で担当アドバイザーが変わったので大変

[運営の基礎について]

○財源確保のために

- ・ 施設の使用減免を利用する
- ・ 自動販売機を設置することで、クラブの名前を宣伝できることと売り上げの何%かを財源として得ることができる



○拠点施設について

- ・ 公園の管理棟に事務局を置く
- ・ 公民館一室、または、一角にプレハブを建てる。
- ・ 町民体育館の一室を利用する
- ・ 体育協会の事務局に同居させてもらう
- ・ 公民館活動がマンネリ化している

○事務局、準備委員会体制について

- ・ 体育指導委員を中心に体育協会、行政の20名程度で構成
- ・ 地区体育部長、体育指導員、自治会長の20名程度で構成
- ・ 設立後働ける人で構成
- ・ 会長、事務局長、書記、管理を決めているので回覧で希望者を募る
- ・ 体育振興会、現クラブ・スポ少代表者、小中学校長、コミュニティ会長、自治会長の30名程度で構成
- ・ 地域によって人数は様々、それぞれの実状によって各部の部長さん等を引き込んだらいいと思う

○高齢者が多い地域について

- ・ 地域みんなが元気になろうと独居老人へのサポートを行うことで、地域活性化の意識が非常に強い

○若い人を呼び込むために

- ・ サークル活動を行って啓発
- ・ 会費徴収がどうしてもネックになるので考えたい
- ・ クラブとスポ少との違いが何か説明できないので答えが必要
- ・ クラブのメリットが説明できないので答えが必要
- ・ スポ少等の活動をしていない人をターゲットにして人を集めている
- ・ スポ少が動けばその親もついてくる

○クラブマネジャーについて

- ・ クラブマネジャーの人選が大事であり、日中動けてPCができる人（※例 60 万円× 2 名／年間）が望ましい
- ・ 常勤にすると保障問題が発生してくる
- ・ 常勤にする財源確保が問題
- ・ アシスタントマネジャーを取得するためにもお金がかかる

○クラブづくりについて

- ・ クラブは地域の力を高める
- ・ 自分だけがやっているのではなく、地域のためにやっていると、気持ちを変える
- ・ 総合型の説明をねばり強く行い理解を求める
- ・ 会費をいかに集めるか
- ・ 子どもから高齢者まで楽しめる活動
- ・ 横のつながりが大事
- ・ 多様な体験ができるプログラム
- ・ 勝利主義から楽しい総合型 SC
- ・ 一人の指導者だけでなく、多数の指導者からアドバイスをもらう

○設立のプロセスとして藤川班員の説明

- ・ 地域の中で、このままではいけないという思いから立ち上がる人がいる
- ・ 形式的にやるのではなく、地域貢献をする思いが必要
- ・ 仲間や同じ思いの人を集める
- ・ 将来の地域の青写真を絵や言葉にして賛同者をつのる

まとめ

クラブづくりは、熱い思いがないと継続した運営はできないし、地域に根付いていかない。それにはクラブの信用と信頼が必要になってくるが、日々の活動から人のつながりを一番重要と考え取り組んで行くことが大事だと思う。また、他のクラブを視察することで新しい人との出会いがあり、クラブの輪も広がる。これは、クラブ間の交流にもつながり、イベント事業はクラブ同士で大勢の人を集めることができる。大きく言えば地域間交流になる。クラブの理念を設立時に決め、ブレない思いを常に持ちクラブづくりを楽しんでほしいと思います。今回のブロックミーティングに出席し、多くの同士が普段抱えている悩みや苦労をお互いに吐き出し意見交換することで、ヒントが得られ、少しは元気になってもらったのではないのでしょうか。地域に帰って、設立に携わる準備委員の方や地域の方と地域の将来のために課題は多いし絶えないとは思いますが、笑顔を絶やすことなく頑張っ

（ 報告：中国ブロック地方企画班員 平谷昌樹 ）